

定期作況報告

(第5号 平成12年9月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

8月下旬：最高気温および最低気温とも平年より各々2.7℃高かった。降水量は平年より9mm少なく、平年対比82%であった。降水日数は平年と同じで4日であった。日照時間は平年より2.7時間少なく、平年対比94%であった。夏日（最高気温25℃以上）は9日間で、うち3日間は真夏日（最高気温30℃以上）であった。

9月上旬：最高気温は平年より0.6℃低く、最低気温は平年より1.4℃高かった。降水量は平年より72mm多く、平年対比211%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より10.5時間少なく、平年対比79%であった。夏日は4日間であった。

9月中旬：最高気温および最低気温は各々平年より2.0、3.8℃高かった。降水量は平年より65mm多く、平年対比238%であった。降水日数は平年並であった。日照時間は平年より5.8時間少なく、平年対比86%であった。夏日は2日間であった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	27.6	24.9	2.7	22.6	23.2	▲0.6	22.2	20.2	2.0	24.1	22.8	1.3
最低気温(℃)	18.0	15.3	2.7	14.5	13.1	1.4	14.0	10.2	3.8	15.5	12.9	2.6
平均気温(℃)	22.0	19.7	2.3	17.9	17.7	0.2	17.8	14.8	3.0	19.2	17.4	1.8
降水量(mm)	40	49	▲9	137	65	72	112	47	65	289	161	128
降水日数(日)	4	4	0	6	5	1	6	6	0	16	15	1
日照時間(h)	45.9	48.6	▲2.7	39.5	50.0	▲10.5	35.0	40.8	▲5.8	120.4	139.4	▲19.0

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 平年並

事 由： 成熟期は9月4～9日で平年より9～15日早く、登熟日数は平年より8～12日短かった。㎡当たり穂数は「ゆきまる」中苗、「きらら397」成苗が平年より多く、「きらら397」中苗、「ゆきひかり」中苗が平年より少なかった。一穂粒数は「きらら397」成苗が平年より多かった（平年対比105%）が、中苗の各品種は平年より少なかった（平年対比93～96%）。このため、㎡当たり粒数は「きらら397」成苗が平年対比111%で平年を上回ったものの、中苗の各品種では平年を下回り平年対比88～99%であった。稔実歩合は「ゆきまる」中苗を除く品種・苗で平年より高かった。

㎡当たり稔実粒数（㎡当たり粒数×稔実歩合）は「きらら397」成苗で平年を上回ったが、中苗は平年並から平年を下回り、特に「きらら397」「ゆきひかり」で少なかった。

品種・苗込みで見ると稔実歩合は平年より高かったが、㎡当たり粒数が平年を下回ったため、㎡当たり稔実粒数はほぼ平年並であった。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

表2 生育期節

品 種 苗	成熟期 (月・日)			登熟日数 (日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	9. 6	9.21	△15	42	54	▲12
ゆきひかり 中苗	9. 9	9.23	△ 9	42	52	▲10
イシカリ 中苗	9. 5	9.19	△14	42	53	▲11
ゆきまる 中苗	9. 4	9.19	△15	42	53	▲11
きらら397 成苗	9. 8	9.19	△11	46	54	▲ 8

注1) 平年値は平成6～10年の5か年の平均値。 2) △・▲印は平年に比べて早・減を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品 種 苗	㎡当り穂数 (本)				一穂粒数 (粒)				㎡当り粒数(×1000粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	673	695	▲22	97	45.0	48.5	▲3.5	93	30.3	34.3	▲4.0	88
ゆきひかり 中苗	578	619	▲41	93	61.1	63.9	▲2.8	96	35.3	38.6	▲3.3	91
イシカリ 中苗	600	604	▲ 4	99	56.5	58.8	▲2.3	96	33.9	34.8	▲0.9	97
ゆきまる 中苗	685	644	41	106	50.1	54.0	▲3.9	93	34.3	34.6	▲0.3	99
きらら397 成苗	760	717	43	106	49.4	47.2	2.2	105	37.5	33.8	3.7	111
品 種 苗	稔実歩合 (%)				㎡当稔実粒数(×1000粒)							
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)				
きらら397 中苗	95.1	90.9	4.2	105	28.8	31.1	▲2.3	93				
ゆきひかり 中苗	93.2	90.8	2.4	103	32.9	35.0	▲2.1	94				
イシカリ 中苗	88.5	86.2	2.3	103	30.0	30.0	0	100				
ゆきまる 中苗	90.5	92.6	▲2.1	98	31.0	32.1	▲1.1	97				
きらら397 成苗	89.0	83.7	5.3	106	33.4	30.3	3.1	110				

注1) 平年値は平成7～11年の5か年の平均値。 2) ▲印は平年に比べて減を示す。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	22.0	2.3	19.7	73.2	37.1	36.1	-	70.0	-
ゆきひかり 中苗	20.0	3.5	16.5	44.5	33.5	11.0	79.7	62.5	17.2
イシカリ 中苗	26.8	4.7	22.1	70.2	39.5	30.7	71.1	74.7	▲3.6
ゆきまる 中苗	16.4	7.3	9.1	70.7	48.8	21.9	77.8	77.4	0.4
きらら397 成苗	19.2	2.9	16.3	60.4	40.0	20.4	61.6	75.7	▲14.1

注1) 平年値は平成7～11年の5か年の平均値。

2) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

2) 秋播小麦 : やや不良

事由： 9月上旬から中旬にかけての降雨により、播種期は平年より11日遅れの9月21日となった。播種の遅れにより、越冬前の生育量の不足が心配される。したがって、目下の作況はやや不良である。

3) とうもろこし : 不良

事由： 稈長は両品種とも平年より短く、着雌穂高は「キタユタカ」で平年より短かったものの、「P3732」では平年より高かった。登熟期間が高温に経過したため雌穂の登熟は進み、収穫期は平年より1日早く、収穫期の熟度も進んでいた。一方、7月下旬の長雨と日照不足の影響で不稔個体割合が平年より高く、乾雌穂重及びTDN収量は平年より劣ることが予想される。したがって、目下の作況は不良である。

表5 収穫期のとうもろこしの生育

品 種 名	稈 長 (cm)			着 雌 穂 高 (cm)			収 穫 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	220	245	▲ 25	101	110	▲ 9	9.19	9.20	△ 1
P 3 7 3 2	254	269	▲ 15	142	131	11	9.19	9.20	△ 1

品 種 名	熟 度		不 稔 個 体 割 合		
	本 年	平 年	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	黄後	黄中	65.0	7.8	57.2
P 3 7 3 2	黄中	黄初	25.0	13.6	11.4

注1) 平年値は、前6か年の平均値。

2) 平成10年より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

4) 大豆 : 良

事由： 全的に倒伏しているが、腐敗や着莢不良もほとんどみられず、登熟は順調に進んでいる。両品種とも主茎長、主茎節数、分枝数は平年を上回っており、着莢数も平年より多い。したがって、目下の作況は良である。

表6 9月20日の大豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	66	59	7	10.9	10.2	0.7
トヨコマチ	67	61	6	11.1	10.9	0.2

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	8.0	6.9	1.1	92	81	11
トヨコマチ	8.1	5.9	2.2	88	75	13

注) 平年値は、前6か年の平均値。

5) 小 豆 : 不良

事由： 試験区の大部分が茎疫病に罹病したため、前月より調査継続不能となり、「サホロショウズ」は別試験区(反復無し)の、「エリモショウズ」は発病の少ない1区のみ調査を継続し、参考成績としている。

登熟期間が高温に経過したため成熟期は平年より11日~12日早まった。参考値ではあるが、着莢数は平年並みからやや多かったものの、登熟期間が短かったため百粒重は極めて小さかった。このため子実重は平年を大きく下回った。

したがって、目下の作況は不良である。

表7 成熟期の小豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	8.21	9.1	△11	54	57	▲3	4.0	5.7	▲1.7
エリモショウズ	8.24	9.5	△12	53	54	▲1	3.3	5.6	▲2.3

品 種 名	着 莢 数 (個)			子 実 重 (kg/10a)				百 粒 重 (g)		
	本 年	平 年	比 較	本年	平年	比較	対平比	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	56	56	0	243	320	▲77	76	10.7	13.3	▲2.6
エリモショウズ	65	56	9	250	318	▲68	79	9.7	11.8	▲2.1

注1) 平年値は、前6か年の平均値。 2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : やや不良

事由: 8月下旬と9月中旬が高温に経過したため、枯凋は早まった。9月上中旬が多雨で、期間を通して日照不足であった。この結果、以下のような生育を示している。

「男爵いも」は、枯凋期が8月21日で平年より16日早かった。上いも重は平年比120%と多収を示したが、いも数が多いため平均一個重が軽く、60g以上の中上いも重は平年比98%で、でんぷん価も低かった。

「農林1号」は、枯凋期に達していないため収量調査は実施していない。しかし、枯凋はかなり進んでおり数日中に枯凋期を迎えるものと思われる。少量の試し掘りでは、上いも収量はほぼ平年並みであったが、でんぷん価がやや低かった。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表8 9月20日のばれいしょの生育

品種名	枯凋期(月日)			上いも重(Kg/10a)				中上いも重(Kg/10a)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比	本年	平年	比較	平年比
農林1号 男爵いも	未 8.21	達せず 9.6	— △16	— 4554	5154 3811	— 743	— 120	— 3333	4756 3410	— ▲77	— 98

品種名	でん粉価(%)		
	本年	平年	比較
農林1号 男爵いも	— 12.5	14.6 14.1	— ▲1.6

- 1) 平年値は、平成6年～10年の5か年の平均値。
 なお、平年値は株間40cm、本年の値は株間30cmの値
 2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

7) てんさい : 平年並

事由: 8月下旬と9月中旬が高温で、9月上中旬が多雨・日照不足に経過した。このため、軟弱な生育を示し、新葉の発生は緩慢であった。

草丈はほぼ前期並みで両品種とも平年をやや上回った。生葉数は、前期より減少傾向を示し「モノホマレ」はほぼ平年並みで、「ストーク」は平年を下回った。一方、根周の増加は順調で、「モノホマレ」は前期同様平年をやや上回り、「ストーク」は平年並みに回復した。「モノホマレ」はやや良好な生育を示しているが、「ストーク」は生葉数の不足による糖分の低下が懸念される。

したがって、目下の作況は平年並である。

表9 9月20日のてんさいの生育

品種名	草丈(cm)			生葉数(枚/株)			根周(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	69	59	10	31.6	31.7	▲0.1	35.1	33.1	2.0
ストーク	62	57	5	27.8	31.5	▲3.7	35.6	35.8	▲0.2

- 注1) 「モノホマレ」の平年値は、前6か年平均値。「ストーク」の平年値は、前3か年平均値。
 2) ▲は平年より減を示す。